

(7) 大気乱流中を伝搬するソーザ波の対数強度分布測定 (Y. Furuhashi and M. Fukushima)

Session ④ の contributed paper のうち光波伝搬に関するものは、我々が提出したものであり、コロキウムの参加者の構成柄、主要な興味の対象とはならなかったが、レーザ波伝搬を使って大気パラメーターの一つ C_n^2 (大気屈折率構造関数定数) の決定法を提出したことで注目を浴びた。これはレーザ波の大気伝搬において受信ビーム中の異なる3点で同時にシンチレーションを測定

し、古津理論に基づいて解析したもので、理論と実験結果とが非常によく合致している。従来、レーザ波の大気伝搬は平面波あるいは球面波近似によって行われていた。しかしビーム波で且つ前方散乱を正確に考慮すると受信ビーム中の観測点の位置によってシンチレーションが著しく異なってくる事が判明したことは非常に重要であり、今後この理論に立脚した実験データの洗い直しが必要であるように思われる。(終りの(6), (7)項は古津洋治氏が執筆した。)

第17期 全国理事会 (秋季)

議 事 録

日 時 昭和47年10月24日 (火) 17.30~20.00

場 所 新潟市商工会議所会議室

出席者 磯野, 孫野, 山本, 岸保, 北川, 大井, 駒林, 二宮, 丸山, 小平, 河村, 伊藤, 中山 (以上理事), 久保 (大会委員長), 藤田 (監事)

議題とその経過

1) 春, 夏の講演会の地方開催について

地方支部の自主的なものにまかせること, またシンポジウムの形式について話しあった。反対意見なし。

2) 天気編集地方委員の承認について

天気の内容充実のため東京を除く各支部に更に一名の地方委員を委しょくすることが承認された。

北海道地区 菊地勝弘 (北大), 東北地区 田中正之 (東北大) 関西地区 浅井富雄 (京大), 九州地区 小島隆義 (福岡管区)

3) 学会の経理状況について

学会経理の苦しいことは了解され, 改善のための具体

案として

- (i) 賛助会員を増すこと
- (ii) 集誌別刷代を大幅に値上すること
- (iii) 集誌にページ・チャージをつけること
- (iv) 会費前納にすること

などが話し合われた。次の常任理事会で具体案を検討することになった。

4) 気象集誌投稿の共著者の資格について

原則として会員であることとし, その都度適宜判断することになった。

5) 用語委員会の委員について

10月16日の常任理事会で承認されたものが報告された。

6) 東レ財団研究助成金候補者の推せんについて

専門家の意見をただしたところ, 矢野直会員のものだけを推せんすることにした。